

改訂版 鈴木ビネー知能検査の出版によせて



東京福祉大学大学院教授
元筑波大学心理学系教授
松原 達哉

世界で最初に知能検査が創案され、今日でも広く各国で使用されているのは、ビネー検査である。この検査は、1905年フランス文部省から委託されて心理学者のビネー (Binet, A.) と医師シモン (Simon, T.) とが作成した Binet-Simon-scale である。それをアメリカのスタンフォード大学のターマン (Terman, L.M.) がメリル (Merrill, M.A.) の協力を得て、スタンフォード・ビネー知能検査 (Stanford-Binet Test 1916年) の米国版を出版している。それを鈴木治太郎博士が1930年に鈴木ビネー知能検査(「实际的・個別的な智能測定法」として日本版を作成した。その後、田中寛一博士が Stanford-Binet Test の改訂版を1947年に田中ビネー式知能検査として公にし、両検査がわが国の児童相談所・教育相談所や臨床心理学系大学の心理臨床センター等で広く利用されてきた。

ところが、鈴木ビネー知能検査は、1948年(昭和23年)版以後、今日まで約50年が経ているのに改訂されずにきた。それまでは、鈴木治太郎博士は長年に渡り、尺度作りに情熱を燃やし、被検者も16,000名という多数を対象に研究し、学校教育に役立つ、心理統計的にも正確な知能検査を作成してきたのである。検査内容は、フランス、アメリカ等の子どもとの各問の比較研究が精密に数量的に明示しており、学術的にも高く評価されてきた検査である。実施が簡便であって、短時間に使い易く、安価でもあった。知的障害児の知能測定や教育措置・障害児の福祉手当の判定などに正確で、最適の検査であった。

そこで今回、小宮三彌・塩見邦雄・末岡一伯・置田幸子先生ら鈴木ビネー研究会の方々が、次のような改訂をしつつ、6年間にわたり標準化しなおして改訂版を出版されたのである。

- (1) 鈴木治太郎博士の精神はそのまま受け継ぎ、鈴木ビネー検査の特徴や内容については、この改訂版に引き継いでいる。

- (2) 現代の時代に即し、知能検査の問題内容と尺度を作成している。
- (3) 検査材料、図版や絵カード、検査用具などは新しくし、時代に即して一新している。
- (4) 問題数を 76 問から 72 問に減少し、短時間に実施でき、しかも正確な知能判定ができるよう改善してある。

鈴木治太郎博士は、大阪教育大学天王寺分校の教諭であり、大阪市視学、大阪国立児童教育相談所長など教育実践家であった。しかし大変学術的で知能検査を中心に知的障害児、学業不振児、優秀児童等の研究に貢献されている。その成果を、東京大学、京都大学などから招聘されて特別講演もされている。そして京都大学文学部から「文学博士」を授与されている。田中寛一博士も先生の米寿の記念誌「鈴木先生と知能測定尺度遍歴(昭和 37 年 4 月 4 日)」の中で、「大正9年に1つの尺度を出されて以来、修正に修正を加え、昭和 23 年『实际的・個別的な知能測定法』を出されるまで、実に 28 年間、うまず、たゆまず一途に測定尺度の完成に向って努力された。この尺度の特徴は第1に、最初に検査された被検者数が 16,000 名という多数であったことで、これは外国にも、その例を見ない。第2に『知能測定尺度の客観的根拠』において示されているように、いつも数量的統計的に成績を処理されたことである」と賛美「また、人から尊敬され、包容力があり、愛情に富み、指導力のある人格者である」と讃えておられる。

教育界が 2003 年 3 月に「特殊教育」から「特別支援教育」への転換がされたが、本検査は効果的な教育支援体制づくりに、大変役立つ心理検査である。広く教育界・福祉領域で利用されることを期待したい。

2007 年 4 月

【発行】古市出版

東京都葛飾区奥戸 5-7-8

Tel 03-5672-3534

Fax 03-5672-3544

【発売】(株)岡田総合心理センター

大阪府中央区上町 1-19-17

Tel 06-6762-0048

Fax 06-6762-0040
